

2025年
リール用

短編集

台本 春次未希

2025年リール用

『兄妹』

台本 春次未希

Scene 1

（静かな面会室。ガラスを挟んで右手側に男が座っている。向かいのドアから女が入ってくる。すわる。）

妹（小さく笑いながら）「……お兄ちゃん？ やだな、そっちでも報道されてんだ。わざわざこんなところまで、」

兄「お前……自分が何したのか分かってるのか」

妹「分かってるよ。だからここにいるんじゃない」

兄「なんであんなことを……」

妹「いやだな、深く考えすぎだよ」

兄「はあ？」

妹「ちゃんと聞いた？おばあちゃんたちは話し相手をゲットできて、私はお金をゲット！

ただの商売だよ！win-winなの！サービス業ってやつ？」

兄「ふざけるなよ！お前それ、父さんと母さんにも同じこと言えるのか！？」

妹「言えるんじゃない？来てないのが理由でしょ？大変だね、お兄ちゃんは。いい兄貴ってやつ？」

兄「母さんが倒れたんだ。父さんが仕事休んで付き添ってる」

妹「……じょーだん」

兄「嘘じゃない。お前はそんなふう言うけど、みんなお前のことをずっと気にかけてる。ギリギリでみんな保ってたんだ。“便りがないのはって言うしね”って、母さんすっかり痩せちまって……。とどめにこれだよ」

間

妹「……」

兄「帰ってこなくてもいい。お前が出て行きたくなくなる理由を作ったのも、俺たちだって分かってる」

妹「……」

兄「だけど、こんなふうにも周りも自分を蔑ろにするような事はやめてくれ。……兄さん調べたんだ。前科がつかない場合だってあるんだろ？」

妹（小さく笑って）「無理だよ。それは“詐欺じゃない”って認識してた場合でしょ？私は“詐欺だ”って認識して、おばあちゃんからお金……盗んだ」

（沈黙。時計の針の音だけが響く。）

妹「……ごめんなさい。私がこんなことしたから、お兄ちゃんたちにも迷惑かかるよね。あのおばあちゃんだっ……善意に付け入るような真似して……。もう今更戻れないよ」

兄（静かに封筒を取り出す）「弁護士の人から手紙と嘆願書のコピー、預かってる。被害者の方からの」
妹「……え？」

Scene 2 (A) :: 嘆願書（ナレーション）△案 おばあちゃんの声（朗読）

私は、このたびの事件で「被害者」として扱われている〇〇〇〇と申します。

私のもとに来てくれていた〇〇さん（被告人）は、私のような年寄りを気遣ってくれる優しい子でした。

お金を渡したのも、私が「お礼をしたい」と申し出たもので、

決して騙されたり、無理に取られたりしたわけではありません。

楽しくお話して、昔話を聞いてくれて、孫と話しているような気持ちになっていました。

その子が「詐欺をした」と聞かされて驚きました。

私自身は、そのような悪いことをされたとは思っておりません。

私が渡したお金のせいでひどい誤解を招く結果になってしまったと聞かされました。

どうか、〇〇さんを厳しく罰するようなことはしないでください。

私は彼女から被害を受けたという認識は持っておりません。

以上のことから、私は〇〇さんの寛大な処分を心からお願い申し上げます。

Scene 2 (B) おばあちゃんの朗読

○○ちゃんへ

このあいだは、ドアの建て付けを直してくれてありがとう。

おかげで、風が吹いてもガタガタ言わなくなりました。

あのあと、お花も植え替えてみたの。

○○ちゃんが好きだって言ってたコスモスも、秋になったら植えようかしら。

また見に来てください。

みんな、あなたのことを悪く言うけれど、私は信じています。

あの日も、「おばあちゃん、寒くないですか」って聞いてくれたでしょう。

私はあの言葉に少しの悪意も感じませんでした。

ドアも直してもらって、話し相手にもなってもらって、

あなたが言っていた“win-win”ってやつね。

でも、これじゃあ私だけがwinしている気がします。

違うのかしら。

また使い方、教えてくださいね。

無理しないで、ちゃんと食べてね。

外に出られるようになったら、またお茶をしましょう。

おまんじゅう、好きだったわね。

今度は粒あんのものを用意しておきます。

（照明が切り替わる。面会室に戻る。）

Scene 4

兄「……弁護士さんが、“悪い結果にはならないと思います”って。俺、お前が捕まったってネットで見た時、血の気が引いたよ。兄ちゃん、毎朝の日課だったんだ。お前の名前を調べるの。行方不明とか、事故とか、毎日毎日“該当なし”って文字を見て安心してた。“詐欺”って……もう兄ちゃん、申し訳なくて」

妹（泣）「違う！ やめてよ！ 兄ちゃんには関係ないよ！私が勝手に出てって、勝手に判断して、勝手に……勝手に……！」

兄「ここに来るまで不安だった。どんな表情してるのかなって。もうあの頃のお前には会えないのかなって。

ここまで来たのに、帰ろうかと思って。でも弁護士さんが、手紙読ませてくれて……」

妹「……戻りたい……ごめんなさい。ごめんなさい」

兄「兄ちゃん、待ってるから。父さんも母さんも待ってるから。また♪人で、ご飯食べに行こう。それでおばあちゃんにもちゃんと謝りに行こう。

妹泣

終わり

2025年リール用

『最後のバンド』

台本 春次未希

『最後のバンド』

登場人物

△：若葉（病室の主。明るく、死を笑いで包むタイプ）

□：舞（短気で正直者）

○：結衣（おっとり。仲間思い）

◇：里美（現実的で冷静。ツツコミ役）

病室。窓の外は午後の日差し。

小さな花瓶。

A「いやあ、久しぶりだね。元気してた？」

B「……」

A「あいも変わらずシカト！変わんないねえ！みんな！久々なんだから元気よく行こうよ！こう、感動の再会っぽく？」

D「結衣、知ってたの？」

C「いめん」

B「よくもまあ平気な顔して黙ってたよね。何考えてんの」

C「いめん」

D「舞」

B「何？私なんか間違ったこと言ってる？」

A「まあまあまあ、みんなここ病室だから静かめにね」

(間)

A「え、ツツコミ待ちだったのに」

B「意味わかんない」

D「ひさしぶりすぎて衰えたんじゃない？」

A「結衣さん……」

C「全然面白くない」

A「え、味方しなかったの怒ってる？……ええ、みんなあああ」

B「……いつなの」

A「ん?」

B「さっ!……」

D「余命?」

B「里美!あんた!」

D「なに?」

A「3ヶ月後だって」

間

D「:そう」

B「:なんでそんな普通なわけ」

C「……普通じゃないよ」

B「黙っておけてるんだから普通でしょ!?」

D「舞、やめな」

A「私が黙っててって言ったのよ。結衣っちにもほんとは言うつもりなかったの、偶然会っちゃって」

B「は？あんた、じゃあ結衣にバレなかったらそのまま誰にも会わずポックリ行くつもりだったってこと？」

D「ドン引きなんだけど」

A「いや、まあ現状ちゃんと、お呼び出しさせていた দিয়ে……」

C「舞ちゃん私にばれてからも二人を呼ぶつもりもなかったの」

A「結衣さーん！」

D「ドン引きなんですけど」

A「いや、なんかあれじゃん、“久しぶり、死にます”っていうのはご祝儀泥棒っていうか？結婚式のご祝儀と人集めるために声かけてるみたいで嫌だなあって」

D「ここで真逆のものを例に出すセンスの無さ」

A「.:ってのはよくないなあと思う」

C「思えなかったので私が考えさせ」

A「考え！させられまして、お呼び出しさせていただきました。えー……あのね、最後にね」

B「聞きたくない」

A「聞いてくださいよ」

D「舞」

間

B「二人ともまだ許したわけじゃないからね」

C「うん」

A「はい」

B「でも、ちゃんと聞く」

D「教えて」

A「うん……あのね、最後にね……バンドをやりたいなと……」

(間)

D「はあ？」

B「コイツ……」

D「何年前の話題持ち出してるの」

B「結衣！！ちゃんと止めろよ！！」

C「でもみんなが集まれるならいいかなって」

B「よくない！！できないでしょう！楽器もないし！」

A「あるんです」

B「なんでだよ！！」

C「保険金が降りる予定なので買えました」

B「コメントしづらい！」

D「連絡しないでおうとしてたやつの行動力じゃないわ」

A「一生のお願い……！」

D「笑えない」

A「笑ってよお、捨て身のボケだよ」

B「ロイツ……！……もおおお……！」

C「ここで舞選手の懐かしの空手ちょーっぷ！」

B「いや、瀕死のやつはどつけないわ！」

A「……調子戻ってきたねえ舞ちゃん！」

B「はああ……」

(しばし間)

B「結衣はやる気なの？」

C「うん」

B「里美は？」

D「うん。いいんだけど、なんでバンド？」

A「そう！なんか！死ぬ時って聴覚は最後まで残るらしいの！だから鮮明に記憶して残しておきたいなって！」

(間)

A「まあでも高校のときの音源もあるし、みんな忙しいだろうし、無理にとは……」

B「……やるよ」

A「！ほんと！！！」

B「声でかい！ただし！ライブはしないからね！」

A「ええー！」

B「当たり前でしょ！」

C「懐かしいなあこの感じ」

D「覚えてる？文化祭」

C「もちろん」

B「地声歌唱事件？」

A「みんなよく覚えてんね」

B「どうやっても覚えてるわ！」

D「マイクの線をブチっと」

C「本当にね」

B「自分で抜いて自分でリカバリーしたら世話ないよな」

A「いや！わざとじゃないから！」

D「あれはわざとじゃないかってくらいだった」

B「話の話題はお前の生声のことばっか」

C「私たちも散々練習したのにねえ」

D「やめる？バンド。なんか思い出したら腹立ってきた」

A「え、え、え！そりゃないって！こちとら瀕死だよ！！！」

B「もうやだあコイツ」

C「なんでもネタにするんだから」

D「こんだけうるさかったら天国からも追い出されるんじゃない？」

A「え、地獄行きてこと？」

D「違うわよ！現世に戻ってこいって言ってんの！」

A「あ！そゆことか！」

(ACDがしばし騒ぐ)

B「……やだなあ(泣)」

C「舞ちゃん」

D「舞」

A「やだ舞ちゃん泣かないでよ」

B「泣いてないよ！」

A「すごい嘘つくじゃん」

B「なんでお前なんだよ！世の中もってお前より悪い奴いるだろ！！！」

A「綺麗な花から摘まれるって言いますから」

B「……ブスー！」

A「あー！！ブスって言った方がブスなんだからな！」

D「見慣れた風景すぎる」

C「若葉ちゃん」

A「ん?」

C「...ほんとに死んじゃうの?」

D「ユイ」

C「パパーンってドッキリなんじゃないの?」

A「今回ばかりはほんとなんだなあ」

C「良いんだよ、私怒んないよ。ドッキリでも、絶対怒んないよ」

A「ごめんね、結衣っち」

B「結衣だけかよ」

A「舞ちゃんも、さとちゃんも、ごめん」

D「やだなあ、また4人で集まったのに」

A「私も……死にたくないなあ」

C「若葉ちゃん……」

(間)

A「ごめん、こんなこと」

B「言ってよ！親友でしょ？」

A「10年も会ってなかったけどね」

B「それでも親友なの！」

——このあたりからバンドの曲がフェードイン——

D「なんだっけあれ」

C「あぁー！WGPー！」

D「それ本家でしょ？」

C「あそうだ、えっと……」

B「……WSYM」

D「それだ」

C「懐かしいねー」

B「私はコイツが頭文字なのを許さない」

D「まだ言ってるの」

A「しつこいな、禿げるぞ、ハゲ米」

D「米じゃん」

C「玄米」

A「ハ玄米」

B「だあああー！！ヘラヘラヘラヘラしやがって！泣けよ！お前も！」

A「王様すぎるでしょ」

B「お前だけには言われたくない！」

C・D（笑う）

最後、Aの歌唱

C「若葉ちゃん…」

A「なに？」

C「なに？じゃないよ、どうして病院にいるの？どうして、そんなに痩せてるの？」

A「それはあんたを食べるためだよお」

C「面白くない」

A「ごめん」

C「…どっか悪いの？」

A「できものができて」

C「どきもの？」

A「胃に」

Ｃ「…ガンってこと？」

Ａ「ガン、どう腫瘍ってかんじ？」

Ｃ「若葉ちゃん！」

Ａ「ごめんって」

Ｃ「治るんだよね」

Ａ「そんな質問されたら疲れちゃうよ」

Ｃ「ごめん」

Ａ「じょーだん」

Ｃ「…2人には言わないの？」

Ａ「言わないの。」

Ｃ「会わなかったら言う気なかったよね？なんで何も言ってくれないの？」

Ａ「まあなんか死にかけてるから声かけるってのも良くないかなって、利用してるみたいで」

Ｃ「まって、死ぬの？」

Ａ「そら人間いつかは死ぬよ」

Ｃ「そういうこと言ってるんじゃない」

Ａ「…これ利用して声かけるのなんか違うくない？」

Ｃ「若葉ちゃん、違うくない！違うかないよ！」

Ａ「だってあいつらどうせ怒るじゃん」

Ｃ「怒るよ！当たり前でしょ！なんなら私も怒ってるよ！！」

Ａ「そんなこと言われても私どうしようもできないよ！！」

Ｃ「…」

Ａ「私だって、いつか仲直りしてまた♪人でバカやりたくなって、せめてご飯くらい、高校生時みたいには無理かもだけどって」

Ｃ「若葉ちゃん」

A「でもなんか違うじゃん？しぬから最後に会いましょうって違うじゃん？N人がさ許したくなくてもさ、死ぬやつのことって許さなきゃいけない感じしちゃうじゃん…私そんなので会うの嫌だ。」

C「若葉ちゃん、本当にN人がそんなこと思うなんて思うの？あんだけ一緒にいたのにそんなこと思うわけないでしょ？」

A「わかんないよ？人間成長したら変わるって言うじゃん。」

C「変わったとして、許す許さないはN人が決めることだよ。若葉ちゃんが言わないって判断してそのまま…そのまま死んじゃってN人は後から仲直りしたいなって連絡とったらどれだけ後悔させてることになると思う？」

A「…」

C「ごめん」

A「なんで謝るの」

C「だって」

A「いや、てかわかってるんだ、私が怖いだけなんだよね。なにか明確に結果が出てしまうのが。それならいい思

い出の中であって。」

C「うん」

A「連絡取るよ、ちゃんと」

C「うん」

A「きてくれる?」

C「ハズるつもり?」

A「ありがとう」

C「うん」

2025年リール用

『CAMOUFLAGED STAR』

原案 Hi-mic Films

台本 春次未希

A「明日の仕込みは全部終わってます。…それとオーナー、以前から話してる退職の件なんですが…」

B「あー、はいはいそれね、まあおいおい…あ！玉ねぎの数数えといて！」

A「玉ねぎって…ずっと言ってますよね、真剣に話聞いていたきたいんですが、」

B「業者の発注！したいから！この話はおわー」

A「すみません。明日からもう来ません。」

B「は？何言ってるの？だからその話は…」

A「オーナー真剣に考える気ないですよ。なあなあにして私が諦めるの待ってるでしょう？」

B「…」

A「足踏みしてる暇はないんです。

やりたいことだってたくさんあるし、私、女優になりたいんです。

今まではただ指示のままに働いてきましたけど、もうやめます。

私は自分を活かして認められる場所で頑張りたいんです。」

B「キャリアを捨てるのか？成功するのもわからないのに？」

A「成功が目的じゃないんです。もちろん努力は死ぬほどします。

ただ、どんな結果になったとしても自分に正直に生きていたいんです。

だから、辞めます。」

B「…」

A「あ、そうだ。玉ねぎ21個ありましたよ。明日からは自分で数えてくださいね。」